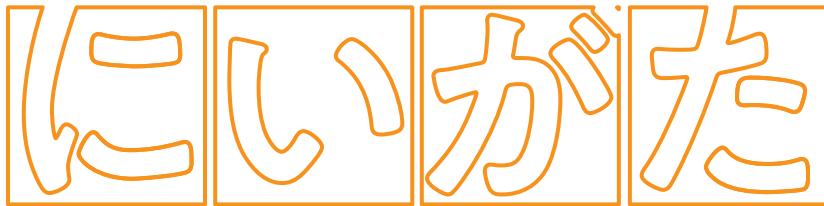


2023 Vol.156  
11月20日発行

# 看護

公益社団法人  
新潟県看護協会機関誌



*Series* つながる・ひろがる・たかめる  
専門性の高い看護



## Contents

- |                      |  |
|----------------------|--|
| 02 副会長あいさつ／地区支部の取り組み | 08/09 つながる・ひろがる・たかめる専門性の高い看護           |
| 03/04/05 支部の取り組み     | 10 認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修を受講して           |
| 06 支部職能代表者会議報告       | 11 2023年度WLB推進事業研修報告／新潟県ナースセンターからのお知らせ |
| 07 看護小規模多機能型居宅介護     | 12 ナースシップよりお知らせ                        |

## 副会長 あいさつ



渡邊 典子  
新潟青陵大学

令和5年6月の新潟県看護協会通常総会で副会長に就任しました渡邊です。副会長2期目となります。この度のCOVID-19パンデミックの試練を乗り越え、5月から5類感染症移行になったとはいえ、臨床現場での影響は継続しコロナ禍にあると思います。日々保健・医療・福祉の現場で命と向きあっておられる看護職の皆様に心から敬意と感謝を申し上げますとともに、これからも看護の力で一緒に頑張りましょう。

## 支部の取り組み



新型コロナウイルス感染症が感染症分類第5類に移行し、社会的な制約が緩和される中、11地区の支部が、地域の課題や特性に合わせた地域活動や研修計画を立て実施しています。



### ＝村上＝

村上支部長 厚生連村上総合病院 富樫 京子

8月4日猛暑の中、村上支部では第1回役員会議を開催しました。当日は青木常任理事を迎えて、新潟県看護協会支部役員の役割について、令和5年度から令和7年度の重点目標に沿って詳しく解説していただきました。

今年度は支部総会を開催できませんでしたが、今後の支部活動として、10月14日(土)に4年ぶりとなります、三職能合同研修会を予定しております。

村上支部では年々会員数が減少し、また病床機能再編という転換期を迎えており、現行方法での支部活動の存続には難があるという意見を、役員の方々より多数いただきました。そこで、皆様方からご意見をいただきやすく、アンケート調査を実施いたします。ご意見を参考にし、支部協会活動の目的が達成できるよう皆さんと協議し、ご協力を得ながら進めていきたいと考えております。



### ＝新発田＝

新発田支部長 脳神経センター阿賀野病院 落合 美恵子

新発田支部では、COVID19の先が見通せないことから3年連続新旧役員のみの集会となりました。新発田支部では、助産師として活躍している病院は1つしかなく、役員の選出や助産師職能の活動も思うようにいかない事から、今年度は助産師と看護師職能が合同で活動する事にしました。保健師職能、助産師・看護師職能の各々で研修会を企画中です。

支部長を引き受けて2年目ですが、「地域住民の健康と幸福の実現の為に貢献する」という役割がある事を実感しています。1年目は地域活動への参加は、何が何だかわからない状態での参加でしたが、2年目は意識をして参加しています。県役員、支部役員、会員の皆様のお力をお借りしながら努めてまいりますのでよろしくお願いします。



鈴木 美智子  
三之町病院

令和5年6月の新潟県看護協会通常総会において副会長に就任いたしました。

令和6年には診療報酬改定があり、介護・福祉を含めたトリプル改定と、医療DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進ともいわれています。私達看護職は、所属施設の地域での役割と、その役割を果たすために何をすべきかを考え、変化に対応していくことが重要です。会員の皆様と一緒に考え、力を合わせていくことを大切にしていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



## = 県央 =

県央支部長 県立加茂病院 丸山 美香



県央支部では、令和5年6月に通常集会と「看護職が家族を支えるグリーフケア」をテーマに特別講演会を開催しました。県央地域の各市町村では住民向けの人生会議に関する講演会、医療者向けの意思決定支援の学習会開催が増えており、高齢化する住民に提供する医療・ケアの質の向上を目指す輪が広がりつつあります。数年ぶりに開催された特別講演会の会場では、グリーフケアを話題に会員が語り合う様子があり、今後も継続して学んで行かなければならないテーマであることを再認識しました。

また、県央では医療再編とそれに伴う統合計画の実現に向けて、各施設で対応が進んでいます。今年度の県央支部はその変化に対応しながら、県央地域に暮らす人々の健康と療養を支える専門職としての機能と連携の強化を目指して活動していきます。



## = 長岡 =

長岡支部長 長岡西病院 平原 智子



長岡支部では6月24日に令和5年度通常集会を3年ぶりに開催致しました。感染拡大防止対策を取り規模を縮小しての開催でしたが、議事事項はすべて採択されました。記念講演では萩野彩子先生に「心を整えるお片付け～簡単すっきり収納術～」をテーマにお話しをいただき、参加者から「家だけでなく、業務でも共通することで整理整頓されていないことでイライラしたり、時間のロスが生じたりするので今日の学びを職場でも生かしたい」という言葉が聞かれました。久しぶりに対面でのグループワークもあり皆様の笑顔が印象的でした。

現場ではまだ感染による影響は大きいですが、各機能ともに創意工夫をしながら支部役員一同力を合わせ、これまで同様に会員や地域住民の皆様に貢献できる活動を継続してまいります。



## = うおぬま =

うおぬま支部長 斎藤記念病院 富所 芳美



令和5年度看護協会うおぬま支部は『地域と共に歩む切れ間のない看護の輪を広げよう』をテーマに活動しています。

- ①地域のニーズに合った活動の取り組み。
- ②産前産後のネットワーク作り、産前産後のメンタルヘルスにおける支援。
- ③地域住民と共に学び地域の健康問題について取り組み。

うおぬま地域で何が求められ、何が必要なのかを念頭に置き、各機能委員会では協議し活動しております。

また、十日町支部、うおぬま支部の合併が令和5年度の県総会において承認され、令和6年度より、新支部として活動を開始できるように方針や、目標を共有し魚沼圏域の看護の連携、継続可能な基盤作成を心掛け進めております。

# 支部の取り組み



## = 十日町 =

十日町支部長 町立津南病院 高野 幸子



今年6月、新型コロナウイルス感染症の流行で開催できなかった通常集会を、4年ぶりに開催することができました。集会後には「職場の人間関係、職場全体での取り組みと上手な自己表現」と題し、公認心理士の長沼享先生からご講演をいただきました。コロナ禍で抱えたストレスや、日々の対人関係に悩むことも多い中で、ヒントをいただけるご講演でした。

そして令和6年度、うおぬま支部との合併に向けた検討が具体化してきています。広域にはなりますが、Zoomを活用した役員会などで対応がきればと考えています。また、合併することで研修会等の充実も図っていけるのではないかと期待しています。今年度は十日町支部として最後の活動になります。地域活動への協力や各職能研修など、ここ数年実施できなかった活動を実施していきたいと思っています。



## = 柏崎 =

柏崎支部長 柏崎市役所 小池 三千代



令和4年度から、柏崎支部長を務めさせていただいております。職能は保健師です。令和5年度は、様々な活動がコロナ禍前の活動に戻りつつあります。なかでも、早期における職業選択の意識の醸成をめざして11月4日に「中学生看護体験会」を実施できることは意義深いです。当日は参加した中学生が、様々な体験や現役看護師の皆様に触れる環境において、ひとりでも多く看護師に興味を持ってくれることを願っております。

このような啓発活動の必要性を感じる一方で、コロナ禍により過酷さを増している看護の現場の状況があり離職防止が喫緊の課題であると再認識しています。自分にできることは何かと考えながら、まずは役員の皆様からリアルな現実を聴き、関係機関に届ける等、支部の皆様の気持ちに寄り添えるよう努めたいと思っております。



## = 上越 =

上越支部長 県立柿崎病院 水澤 千代子

「私たちはどう生きるか」

上越支部では、上越地域人生最終段階における医療ケア協議会と合同で「人生会議(以下、ACP) サポーター研修」を企画しています。この研修は平成30年度から始まりましたが、コロナ禍で縮小して開催したこともあり現在58名のサポーターが誕生しています。

まずは保健、医療、福祉で働く看護職員がACPを理解し、自分の言葉で自分が大切にしていることを語る作業をすることで、どのようにして地域住民や患者、利用者へ寄り添うことができるかを考える良い機会だと思います。こうした活動を通し、自分らしい生き方・逝き方を支援できる人材を育てたいと考えています。

医療ケア協議会実行委員の方たちは、「上越地域でACPが広がり、ACPを語れる風土の醸成を目指して進めています。」とお話されました。私たちも一緒にこの活動の輪を広げていきたいと考えています。

## 支部長の抱負



### ＝佐渡＝

佐渡支部長 厚生連佐渡総合病院 川上 善博

新潟県看護協会佐渡支部は、佐渡市を拠点に地域の看護師たちの交流や知識の共有促進、地域医療の質の向上と良質な医療サービスの提供を目指して活動しています。教育にも力を入れており、教育研修や職能研修会を実施して看護師たちの知識やスキルの向上を支援しています。広報活動では機関誌を発行して情報発信を行っています。

また、社会活動事業にも協力し、新潟県精神保健福祉協会や佐渡市地域包括ケア会議、佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会、佐渡地域医療構想調整会議など協力して地域の医療・介護・福祉の提供体制の充実に取り組んでいます。

地域の看護師たちが連携し、地域の医療・介護サービスの向上に貢献するためにさまざまな活動を行っている佐渡支部は地域の健康福祉に寄与する存在を目指しています。



### ＝新潟東＝

新潟東支部長 新潟市民病院 石津 美和子

新潟東支部では、令和5年6月29日(金)に通常集会並びに講演会を開催いたしました。新型コロナウィルス感染症が5類へ移行し、社会的には制約が緩和されましたが、通常集会・講演会ともに開催規模は縮小したままの実施といたしました。講演会は新潟県発達障がい者支援センターRIZEの木村吉秀先生より「大人の発達障がい」についてご講演いただき、職場における対人関係、指導場面に活用できると好評を得ました。11月11日(土)に開催した、新潟東西支部三職能合同研修会では、新潟青陵大学看護学科の清水理恵先生のご講演により、コロナ禍を経てより柔軟性が必要とされる現在、看護の現場教育に求められるものについて考えました。新潟東支部は、今後も皆様からの声を大切にしながら、現場や地域のニーズに沿って情報発信ができるように活動して参りたいと思います。



### ＝新潟西＝

新潟西支部長 信楽園病院 長谷川 昌恵

日頃より新潟西支部の活動にご協力、ご尽力いただき感謝申し上げます。6月26日に2023年度新潟西支部通常総会を会員の方に参加いただき実施いたしました。特別講演ではオートウードの山田乙葉先生をお招きし、「五感を使ったコミュニケーション～優先五感を知りコミュニケーション力をあげよう～」というテーマでご講演いただきました。視覚・聴覚・触覚・味覚・臭覚の五感から自分の優先五感と傾向性を知ることで相手の傾向性に合わせられ、コミュニケーション力が高まる学びました。参加された皆様の満足度は高い研修会となりました。今後も会員の方々への情報提供ができる研修会を企画したいと考えております。

支部役員一同力を合わせて活動を行なっていきたいと思います。ご支援よろしくお願ひいたします。



# 支部職能代表者会議報告



保健師職能委員長  
県柏崎地域振興局健康福祉部  
山田 秀子

4年ぶりに対面開催ができた支部代表者会議では、全国職能委員長会を受けて保健師活動指針改定に向けた意見集約のためのグループワークを行いました。

平成25年に改訂された活動指針は、保健師への応援エールとして活動体制と機能を高める根拠となっていたことを評価しつつ、変化拡大してきた保健師の役割・活動に対応していくために必要なことを話し合いました。どのグループでも地区担当制の重要性・必要性が熱く語られました。半面、増え続ける業務に地区担当制が思うように展開できない現実もありました。

今回の話し合いの結果は、他の都道府県保健師職能からの意見とともに集約され、国の検討会等への意見として発信される予定です。改訂される保健師活動指針が2040年問題に対応するための新たな応援エールとなることを期待しています。



看護師職能I委員長  
新潟白根総合病院  
長岡 敦子

日頃より看護師職能I病院領域の活動にご支援いただき有難うございます。昨年度より看護師職能では、地域包括ケアシステムの推進に向け、組織を越えた看護師間の連携に取組んで参りました。病院領域、在宅支援、介護の現場で働く看護師間の地域包括ケアにおける課題を共有する必要から、まずは、看護師職能I・II委員による合同会議を開催しました。互いの業務の理解や看護師間の連携に必要な「地域で暮らすその人らしい暮らし」を支えるための「看看連携」が上手く行われていないことが分かりました。

病院領域と在宅支援看護師による「看看連携」の強化を進め必要があります。例年行われている領域別支部代表者会議を看護師職能合同で開催致しました。17名の支部代表者が参加し、「専門性の高い看護の提供」「看護の質」「人材育成と教育」「多様な働き方」など看護間の抱える問題や課題についての意見交換が行われました。意見交換で出された問題や課題を各支部に持ち帰り、職能間の連携強化を図ることを期待致します。



保健師職能代表者会議の様子



助産師職能委員長  
済生会新潟病院  
佐藤 志津子

支部職能代表者会議は新型コロナ感染症の為4年ぶりの開催となった。そこで今回の開催目的を各支部の助産師を取り巻く現状と活動状況の共有とした。助産師を取り巻く現状は全国と同様に厳しく、産婦人科医師不足に加え、働き方改革による産科医師の集約化により分娩施設の減少。少子化による分娩数の減少による混合病棟化、その結果妊娠産褥婦へのケアに集中できない状況の報告があった。また支部の助産師会員の減少により、1つの支部だけでは活動が成り立たなくなっている。今までの研修中心の活動から複数の支部の会員が集まり情報交換や課題を共有してはどうかという意見もあった。今後の支部活動について協会とともに検討ていきたい。

その後初めての試みとして保健師職能と合同のグループワークでお互いの業務内容や課題を共有することができた。活発な意見交換の場となり、時間が足りない、定期的に他職能との情報交換会の機会を作ってほしいとの意見が出た。今回は協会からの提案もあり実施することができたが、今後職能連携の構築も考えていく必要があると実感した。



看護師職能II委員長  
桑原明美

令和5年7月28日に2023年度全国看護師職能委員長会II(介護・福祉関係・在宅領域)が東京で行われ出席をしてきました。

住み慣れた暮らしの場における看取りと題し、事業所からの報告がありました。看取りのプロセスの中で本人、家族の心の変化に寄り添いながらその人らしい生き方にについて考え、それぞれ関わる人たちが専門性、役割の違いを認めあうこと、連携することが重要であること。そのためには十分な話し合い、良好な職場風紀、継続的学びが大事であることが話し合われました。住み慣れた地域で自分らしく生きる。そのためには4職能が連携することが必要だと思います。

看護師職能では今年度職能間の連携ということで看護師職能I、II合同で会議や支部代表者会議を実施しています。地域包括ケアシステムの構築のために今後も相互理解、情報共有、課題共有を行っていきたいと思います。



助産師職能代表者会議の様子

# 在宅医療の可能性を広げる「看護小規模多機能型居宅介護」 ～訪問看護総合支援センター・訪問看護推進課～

2012年に日本看護協会の提案で創設された「看護小規模多機能型居宅介護」は、地域密着型サービスの一つです。訪問看護、通い、泊り、訪問介護の4つの機能を利用者一人ひとりに合わせ柔軟に提供でき、在宅療養を支えるための重要な役割を担っています。

事業所数は、全国875施設(2022年12月時点)、新潟県20施設(2023年9月時点)と少しづつ増えています。

しかし、日本看護協会の行った調査では、地域住民や自治体、ケアマネジヤーや医療機関の皆様に認知・理解されていないという回答が約半数みられています。そこで、今回は、看護小規模多機能型居宅介護事業所でご活躍されている管理者、看護師のお二方に、事業の魅力について紹介して頂きます。

## 管理者の立場から



看護小規模多機能ホーム  
村上まごころの里 管理者 田村 亮

看護小規模多機能型居宅介護は、退院後の在宅生活への移行や看取り介護の支援、家族に対するレスパイトケアなど、ご本人やご家族の状況や意向に合わせ、「通い」「泊まり」「訪問介護」「訪問看護」を提供しています。

当事業所は、立ち上げから5年が経過。サービス内容に関する認知度の低さと母体が医療機関ではないことから利用者の獲得に苦慮しながら、各専門職が協力し合って、利用者一人一人の在宅生活に必要な支援を行っています。

ようやく地域の病院や居宅介護支援事業所に認知され、ケアマネジヤーや医療相談員から、退院後の回復期、慢性期にある方々の医療的ケアを含めた在宅生活への移行支援や、「最期まで自宅で生活がしたい」と、看取り介護を希望されている方々からの問い合わせをいただくことが増えています。

介護や医療的なケアを必要とする方が、退院と同時に施設入居を考えるのではなく、ご家族の生活を維持しながら、ご本人も住み慣れた自宅で、QOLが保たれた生活が続けられる様に臨機応変で細やかな支援が必要だと考えて実践しています。

今後も一緒に働く仲間と、困った時に気軽に相談に来ていただけ、ご本人やご家族が安心して利用できる事業所作りに取り組んでまいります。

## 看護師の立場から



ケアステーションるぴなす  
山本 純美子

看護小規模多機能型居宅介護、通称『看多機』と言います。担当者会議などで『看多機って何ですか』と、病院関係の方や利用者さんから聞かれることもあり、サービスについてはまだまだ周知されていないことを感じます。ケアステーションるぴなすは、小規模多機能型居宅介護からスタートし、2013年に訪問看護が加わり現在の看多機が誕生しました。

必要に応じ、看護師がご自宅または施設に訪問し、利用者さんに医療と看護ケアを提供しています。中でも排泄、皮膚ケアについては療養が長くなることで生じてくる問題が非常に多く、利用者さんのQOLを下げる要因となることがあります。問題を解決できるヒントが生活の中に隠れてはいないか、ケアスタッフからいち早く情報を得ながらアセスメントができるのは、一体型サービスの最大の利点と言えます。また、ケアステーションが人生最期の療養の場となる場合は、主治医と連携しながら疼痛を評価し苦痛の緩和に努めます。施設利用中と自宅での表情や言葉を通じて、その方らしい人生的終焉を迎えるよう、ご家族、多職種と繰り返し話し合いがされます。

利用者さんの生きる力と逝く力を『看多機』サービスで最大限に引き出せるよう、看護を提供しています。

〈写真の掲載について〉  
御家族の承諾を得ています



## 専門看護師フォローアップ研修を企画して

公立大学法人新潟県立看護大学 看護研究交流センター長 岡村 典子

本学は、2019年に新潟県より委託を受け、「専門性の高い看護職育成検討会」のとりまとめを担いました。それから4年、ようやく課題の一つでした「専門看護師フォローアップ研修」を2023年3月24日(金)に開催することができました。この研修のねらいは、“新潟県内の専門看護師が分野を超えて集い、役割開発について意見を交換するとともに、今後のネットワーク作りについて検討すること”です。私は、2019年の検討会から関わってきましたので、この研修会が開催されたことに大きな喜びを感じています。この研修を企画するにあたり、がん看護専門看護師の柏木夕香さ

ん、老人看護専門看護師の島田玲児さん、母性看護専門看護師の吉森容子さん、慢性疾患看護専門看護師の野中共子さん、地域看護専門看護師の小林奈緒子さんには大変お世話になりました。この場を借りて、御礼申し上げます。そして、先のねらいにも明記しました「専門看護師のネットワーク化」を支援するため、本学では看護研究交流センターに新部門「専門性の高い看護職育成部門」を本年10月に設置いたします。この研修が継続するとともに、専門看護師の方々のネットワーク化が進むよう引き続き尽力してまいります。



## 専門看護師フォローアップ研修に参加して

済生会三条病院 母性看護専門看護師 吉森 容子

今回の研修会は、新潟県内の専門看護師（以下CNS）が集う初めての開催であり、CNSの役割開発とネットワーク作りを中心とした発表とグループワークが行われました。

### ① シンポジストによる活動発表

老人看護・慢性疾患看護・母性看護の3つの分野から発表がありました。私は組織での周産期メンタルチームやDV・虐待防止委員会の立上げと活動について、母性看護CNSの視点からのアセスメントと役割開発の過程を発表しました。

### ② グループワーク

組織の規模や分野も異なるCNSでメンバーが構成

され、役割開発やCNSのネットワーク作りについてディスカッションしました。日々の活動の課題については、個々の経験も交えながら解決策を模索するなど、各グループともに今後につながる具体的かつ活発なディスカッションが展開されました。

研修を通して多くのCNSと交流できたことは、私にとっても新鮮でエンパワーされる体験となりました。そして今後、それぞれの分野の強みを活かしたアセスメントの視点や、高度看護実践の深まりにつながるのではないかと期待が膨らみました。これからもCNSが専門性を発揮できるシステムやネットワークが広がる取り組みの継続が大切だと感じています。

# 専門性の高い看護



## 認定看護師研修

### つながる・広がる・たかめる ～専門性の高い看護～

を受講して

長岡崇徳大学 看護学部看護学科 助手  
認知症看護認定看護師  
菅沼 里菜

2023年3月9日に開催された研修で、認知症看護分野は、教育課程の先輩後輩、同じ地域で個々に顔を合わせたことのある方々もいましたが、新潟県内で認知症看護認定看護師が一堂に会し、顔が見える機会というのは初めてでした。

新潟県内の認知症看護認定看護師は、他の分野の認定看護師数より比較的多いと思います。団塊の世代が75歳以上となる2025年、新潟県内の認知症高齢者は最大で約15万人となると推計されており、地域包括ケアシステムの中で認知症看護認定看護師は今後、各期に応じた多様な場での活躍が期待されているのではないかと思います。

研修では認知症看護認定看護師は、それぞれの所属医療機関の診療報酬上で、認知症ケアマニュアルの作成やラウンド等の活動をされている方々が多く、新しい知識を得たり、自己研鑽する機会が個々では少なかったり、認知症の人の看護はテーラーメイドであるため、自分自身が対応しきれない事例を相談できる場がないなど、日々の悩みを相談・共有できる場が欲しいというような課題が研修で挙げられました。

その課題に対して、建設的に取り組んでいく必要があると考え、コアメンバー5名で県内の認知症看護認定看護師会の立ち上げを行うこととなりました。

私自身は昨年度より、教育機関に所属していますが、臨床から離れる寂しいものもあり、臨床の現場の声を聞けることは、私の認知症看護認定看護師とし

てのモチベーションを維持する活力となっています。そのため、教育機関に認定看護師がいるからこそその強みを活かし、ネットワーク構築をしていきたいと考えています。

今年4月より、コアメンバーで月1回、ZOOMと対面のハイブリッド形式で集まり、会の運営について検討を行っています。「認知症看護の質向上」「研修会の企画や参加」「活動報告や情報交換」を目的とし、ネットワーク構築の主旨を県内の認知症看護認定看護師へ案内を行い、現在25名のネットワークができております。またその中に、老人看護専門看護師の方々からも参加いただいている。

秋には、第1回新潟県認知症看護認定看護師会総会を開催予定です。VR体験や認知症マフの報告会等のプログラムをコアメンバーで企画しています。今後も医療と教育・地域が連携し、認知症看護の質向上に貢献していきたいと考えています。



認知症看護認定看護師会打ち合わせの様子

認知症看護認定看護師教育機関・看護師特定行為指定研修機関申請中

令和6年度 認知症看護認定看護師教育課程（特定行為を含むB課程）を開講予定



●出願期間▶令和5年11月13日(月)～令和5年12月11日(月)

●試験日▶令和6年1月20日(土)

●合格発表▶令和6年2月16日(金)

出願書類請求方法▶長岡崇徳大学公式ホームページから各自ダウンロードしてください

# 認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修を受講して

## ～看護管理の学びと仲間との出会い～

立川メディカルセンター柏崎厚生病院  
副総看護師長兼看護師長 黒崎 純

長年続けた訪問看護から、2022年に病院の副総師長に就任し、看護管理の悩みや不安も大きくなっていました。そのタイミングで受講を勧められ、当初は不安もありましたが、学習する内容はとても興味深く、楽しく学ぶことが出来ました。

理念やビジョンを伝えること、批判的に物事を見ながら、課題を抽出し変革していくという考え方、看護管理に必要な多くの学びがありました。

研修初日に「考えぬく大変さ」という話を聞きましたが、まさに後半の統合演習では考えを深める意義を痛感しました。担当の先生はじめ、講師、支援者、実習を受け入れて下さった施設の方々の協力を得て乗り越えることが出来ました。

そして、2か月間共に悩み、学びあった仲間との出会いも大きかったです。励ましあい、時に笑いあいながら共に学ぶことが出来たことは大きな宝になりました。今後も仲間の存在を支えにしながら、病院、地域のために頑張っていきたいと思います。

わかったような、  
わからないような  
思考過程が混乱

左:筆者



佐渡市立両津病院  
看護部長 鈴木 幸子

所属施設、看護部の理念を踏まえた上で、理想とする看護を実践するために、何をすべきかを論理的に考えることを学びました。研修の中で一番苦慮したのは、統合演習です。どのように看護管理問題を分析し、解決策を見出していくのが、解らず悩み、知識や技術の不十分さを痛感させられました。しかし、ご指導頂いた先生の相談しやすい人柄と受講者に合わせた的確なアドバイスから、解決策を導き出すことができました。多くの学びから、看護管理を実践していく不安が自信へと変化し、概念化のスキルアップに向けた新たな目標を持つことができました。

現在、研修前後の自身の考え方の変化を認識しています。問題に対し、それはなぜ起こっているのか、根拠は何、あるべき姿はと考えてからスタッフと話し合うようになりました。この研修を受講しての成果です。

また、18名の受講者と悩みを言い合える関係性が築け、管理者同士のネットワークができ、これから管理活動の糧になると思っています。

昨日はわかったのに、  
今日はまた前に戻った?  
堂々巡り

右:筆者



大変だけど  
わかることは、楽しい



2023年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル  
学びを深めたONE TEAM(2023年5月17日～7月20日)

# 2023年度WLB推進事業研修報告

WLB推進事業に参加して、成果と現状とこれからを伝える

労働環境改善推進委員会  
委員長 柴田 百合子



医療従事者のWLB事業は、社会保険労務士や医業経営コンサルタント、看護協会等が現状分析や改善計画の立案等を支援し、勤務環境の改善を促進する取り組みです。この事業に参加した長岡中央総合病院の2年間、佐渡市立両津病院の8年間の取り組みを共有し、意見交換を行いました。佐渡市立両津病院は『人財が集まり辞めない病院』、『地域から信頼される病院』に変化できたことが成果として発表されました。病院全体で取り組みを継続していくことが大きな成果につながることを改めて実感しました。

## 新潟県ナースセンターからのお知らせ



※写真提供 日本歯科大学新潟病院

### ●高校生一日看護師体験事業

今年度も  
実施しました！

まだまだ新型コロナウイルス感染症がおさまらない中ではありました  
が、5類に移行し、今年度は多くの病院で実施していただくことができ  
ました。実際の現場体験や看護師からの話を聞く中で、看護の魅力ややり  
がいを感じていただくよい機会となりました。一人でも多くの高校生が  
看護職を目指していただけるよう今後も取り組んで参ります。ご協力い  
ただきました病院の皆様には感謝申し上げます。

### ●新潟県ナースセンター紹介

新潟県ナースセンターは、新潟県知事の指定のもと新潟県看護協会が運営している「無料職業紹介所」です★  
お近くの相談所をぜひご活用ください!来所相談は予約制です。  
[♪相談予約フォームはこちら▼](#)

■長岡支所 (さいわいプラザ別棟2F) 長岡市幸町2-1-1 ☎0258-86-5333	毎週火・木	10:00～15:00	ncnagaoka@niigata-kango.com
■上越支所 (上越市民プラザ2F) 上越市土橋1914-3 ☎070-2175-6014	毎週火・木	10:00～15:00	nc6014@niigata-kango.com
■柏崎相談窓口 (柏崎市役所内) 柏崎市日石町2-1 ☎070-2171-6013	毎週火・木	10:00～15:00	nc6013@niigata-kango.com
■南魚沼相談窓口 (南魚沼市図書館内) 南魚沼市六日町101-8 ☎070-2175-6012	毎週水	10:00～15:00	nc6012@niigata-kango.com
■本所 (新潟県看護協会内) 新潟市中央区川岸町2-11 新潟県看護研修センター内 ☎025-233-6011	毎週月～金 (祝日除く)	9:30～12:00 13:00～16:00	niigata@nurse-center.net



### ●ナースセンター 新任職員紹介

はじめまして



9月よりナースセンター本所で勤務しております、渡邊典子です。  
ナースセンター業務の1つとして、求人施設と求職者の橋渡しをする役目  
があります。現在、看護職を必要としている職場は多岐にわたっております。  
私自身、ブランクや転職を経ており、立場や状況は異なりますが、様々  
な思いを経験してまいりました。これまでの経験を活かし、どのようなご  
相談にも親身になって対応いたします。よろしくお願ひいたします。



はじめまして、この程長岡支所にて勤務する事になりました、大塩恵子です。

以前、病院勤務をしていた際は、ナースセンターに求人側施設としてお世話になりました。  
自分がナースセンターで働く事となり緊張もありますが、期待感の方が大きいです。

今後は相談に来られた方、個々の希望に合った職場又は働き方、及び職場側の希望等、双方により良いマッチングが出来るよう、お手伝いが出来ればと思っています。  
どうぞよろしくお願い致します。

# ナースシップ よりお知らせ

日本看護協会から  
2024年度 継続のお知らせ  
が発送されました!

※大切なお知らせですので、必ずご確認ください。  
※2023年度の会員さまは2024年度も自動継続になります。

会費納入方法が「口座振替」になっている方は、  
2024年度の会費振替日は2024年2月27日(火)です。

登録内容に変更がない方



提出不要です。

登録内容に変更がある方



- 施設で登録の会員の方は、変更箇所を訂正欄にご記入の上、個別の返信用封筒に入れ、施設の会員代表者様へお渡しください。
- 個人会員の方は、返信用封筒に入れ、郵送してください。

- ▶次年度継続を希望しない方 → 退会届を提出してください。
- ▶退会届は新潟県看護協会HPよりダウンロードできます。
- ▶PCを利用できない方は新潟県看護協会へご連絡ください。退会届をお送り致します。
- ▶お電話での退会は受付できません。必ず退会届を提出してください。

- 入会金／10,000円(初めて入会する方のみ)
- 新潟県看護協会費／7,500円
- 日本看護協会費／5,000円



②会費の納入方法が口座振替の方は、2023年12月20日までに退会届の提出をお願いします。  
退会届の提出がないと、2024年2月27日に会費が登録口座より引き落しとなります。

## BOOK 2023.06~09新刊図書



1	高齢者のナイトケア 生活の場を中心とした支援のポイントと実際	尾崎章子・坪井桂子／編著 日本看護協会出版会
2	必携 産業保健看護学－基礎から応用・実践まで－	公益社団法人 日本産業衛生学会産業保健看護部会／編 公益財団法人 産業医学振興財団
3	看護管理者が知っておきたい「様式9」の基礎講座	監修／福井トシ子 編著／一般社団法人日本施設基準管理士協会 メディカ出版

編集にあたり多くの皆様にご協力いただきありがとうございます。先日ホームページの内容改善に関するアンケートを実施させていただきました。ご回答いただいた皆様には感謝申し上げます。貴重な意見を参考に親しみやすいホームページとなるよう頑張ってまいります。

広報委員会：本間／西潟／安達／松宮／佐藤／佐野／片野／渡辺

## 編集後記